

2019年5月5日(日)／説教者：神谷武宏

説教：「キリストと共に十字架につけられています」

聖書：ガラテヤの信徒への手紙2：15～21

この5月は「令和元年」としてお祝いムード一色である。天皇の代替わりが行われ、新天皇を国民が祝っているかのようにテレビ、新聞などが報じている。違和感を覚える。元号は古代中国が発祥で、意味は「皇帝が時をも支配する」との考えに基づく。皇帝がすべての権限を持ち、この世の時をも支配するというもの。今や元号は日本のみを使用する。新憲法下では主権は国民に移った。天皇と結び付いた元号がなぜ必要なのか？

先の戦争で沖縄は地上戦を強いられ、松代大本営建設完成までの時間稼ぎとして持久戦に持ち込み、沖縄住民のお年寄りから小学性までもが男女問わず戦争に駆り出された。天皇のために。三か月余にも及ぶ戦が、天皇のためという真実に触れる時、余りにも悲しく、むご過ぎる現実である。

今朝はパウロの手紙から。ここでの主な内容は、エルサレム教会のユダヤ人キリスト者が、どうしても律法が優先になり、重きが置かれてしまう中であって、異邦人キリスト者があしらわれていく、ユダヤ人ではないということから、彼らのいのちが軽視されていく状況があった。律法という形あるもの、目に見える形で評価できるもの、そういうものを物差しにして行くことは、わかりやすく信仰の度合い、評価がしやすくなるもの。現在の教会においても律法において人を評価するということはある。

しかし聖書はこう記す。《もし、人が律法のお陰で義とされるとすれば、それこそ、キリストの死は無意味になってしまいます。》律法的に人を裁くことは、キリストの死を無意味にしてしまうことになる。キリストの十字架とは何だったのか。キリストの十字架の出来事は、すべての人が受けるべく、救いであり、解放であり、平等、平和という復活の希望に満たされるということである。

パウロは、《わたしは、キリストと共に十字架につけられています》と言う。これはどういうことか？ここはいわゆる現在完了形になっている。あの十字架の出来事は、過去のことで終わっているのではない。過去の出来事が、“いま”と関わっている。「十字架」には、現在の苦しみや悲しみ、いま、あなたに起きている、辛い現実の只中に、イエス・キリストの十字架はあるということ。この御言葉はこのようにも置き換えられよう。

沖縄は、「キリストと共に十字架につけられています」、辺野古は、高江は、普天間は、「キリストと共に十字架につけられています」と。十字架の出来事は、すべての人が受けるべく、救いであり、解放であり、平等、平和という復活の希望に満たされるということである。
(神谷)